

はぎしれきしてきふうちほぞんくいき 萩市歴史的風致保存区域

「まちじゅう博物館構想」を支える歴史的風致の維持・向上



整備前



整備後

写真 堀内鍵曲道路整備事業

写真 観音院観音堂修理事業
(嘉永4年頃の建築)写真 萩藩校明倫館整備事業
(明倫小学校の改修・補修)

事業の各段階のポイント

計画策定時のポイント

～「萩まちじゅう博物館」の取り組みを支援する歴史的環境形成総合支援事業～

地域全体に文化遺産があふれている萩市をひとつの屋根のない博物館と見立て、その中心施設として萩博物館を据え、地区ごとを地域拠点（サテライト）と位置づけ、テーマを設け、展示室のように巡り歩く小径（こみち）を示し、解説員との交流の中で自らの足と目でおたからを発見、理解してもらおうという「萩まちじゅう博物館」の取り組みを始めた。また、景観計画、歴史的風致維持向上計画を策定しており、その実現に向けて歴史的建造物の復原・修理、整備、周辺環境整備を本事業で行うこととした。

事業実施期間中のポイント

～損傷が激しい建造物修理等にかかる事業費の増加～

事業実施時において、損傷が激しい建造物修理費用が増大したほか、民間所有の建造物の個人負担額の確保に苦労があった。しかし、現地説明会の実施や認定都市交流事業の実施によって市民の歴史的維持向上計画への理解が深まった。

事業完了後のポイント

～「萩まちじゅう博物館」の取り組みの進展と新たな課題～

整備の完了した物件については、これらの活用が進められ「萩まちじゅう博物館」の取り組みが確実に進展した。一方で、空き家等により急速に老朽化が進む民家、開発により失われる遺構や夏みかん畑などが数多くあり、これらについてどのような手法で対処して歴史的風致を維持し、まちづくりに繋げていくかが課題となっている。

事業の反映に関するポイント

～「萩まちじゅう博物館」の取り組みの展開へ～

整備を終えた事業が増え、活用が進む中、これらを背景とした市民の多様な活動が「萩まちじゅう博物館」の展開に繋がるように各種の施策や支援を進めるとともに、引き続き萩市の歴史的風致の維持向上が進むように事業等の検討を進めていく必要がある。

(注)事業の各段階のポイントは、各事業関係者より情報提供いただいた内容を取りまとめたものです。

事業の位置づけや背景

萩は、「江戸時代の地図がそのまま使えるまち」と言えるほど、毛利藩政期260年間に形成された城下町の佇まいや町割りなどが今なお残る。萩城跡や武家屋敷、町家、維新の志士の旧宅、寺院等、それぞれは日本を代表する貴重な文化財である。さらに、当時の人々の祭礼や芸能といった活動、萩焼、萩かまぼこなどの伝統技術や産業技術、城下町の街路の名称（筋名）など、市民によって現在に見事に受け継がれ営まれている。

萩市では、このような歴史的な風情、情緒やたたずまいを守るため、昭和47年の萩市歴史的景観保存条例制定を手始めに、これまで積極的に施策を展開してきた。

事業の目標・整備方針

萩城下町又は明治維新に関係の深い地域固有の歴史や景観を象徴する歴史的建造物を適切に修理、活用し、地域の歴史的な風致を維持・向上するとともに、「萩まちじゅう博物館」構想を実現する。

萩まちじゅう博物館を推進する市民団体と連携するとともに、民間団体又は個人所有の歴史的風致形成建造物を一般公開するなど、魅力的な風致を持つまちづくりの推進を図る。

事業内容

歴史的風致を形成する建造物の修復・復原等を実施する。

■事業計画諸元

- 事業名：歴史的環境形成総合支援事業【萩市歴史的風致保存区域】
- 事業主体：萩市
- 位置：萩市内
- 総事業費：約5.6億円
- 事業概要：

- ・地区面積：1,240ha
- ・計画期間：平成20年度～平成24年度
- ・構成事業：
 - 唐樋札場跡復原整備事業
 - 萩城跡(内堀)水質浄化対策事業
 - 萩藩校明倫館整備事業
 - 渡辺蒿蔵旧宅整備事業
 - 藍場川整備事業
 - 堀内鍵曲道路整備事業
 - 観音院観音堂修理事業
 - 歴史都市交流事業
 - 森井家住宅修理事業

■事業経緯

明治維新後 1960年以降	旧武家屋敷の夏蜜柑畑への変貌 開発の進行と夏蜜柑畑の喪失、土堀や石垣の切り崩しの進行
昭和47年 昭和51年	萩市歴史的景観保存条例制定 萩市伝統的建造物群保存地区保存条例制定 堀内・平安古地区重要伝統的建造物群保存地区選定
平成2年 平成13年 平成16年 平成17年 平成19年 平成21年	都市景観条例の制定(平成19年廃止) 浜崎重要伝統的建造物群保存地区選定 「萩まちじゅう博物館条例」制定 景観行政団体指定 萩市景観条例制定 歴史的風致維持向上計画認定

地区等の問題点・課題

萩市における歴史的風致を保存、活用して、市民が誇りをもって快適に住めるまちにしていこうと、また、これを後世に継承することが課題である。

- 歴史的な建造物が、老朽化等により急速に取り壊され、又は自然消滅。歴史的な建造物は急激に、確実に消失することは明らか。
- 萩には古代から藩政期、明治維新を経て現代に及ぶ長い歴史があり、多くの文化財や歴史的なまちなみが残存。市民一人一人が萩の歴史をしっかりと語り継ぐとともにその舞台となる歴史的まちなみ等、景観の保存、継承及び良好な景観の形成を図ることが必要。
- 高齢化及び過疎化の進行が著しく、萩市固有の歴史及び伝統を反映した伝承芸能や祭礼を守ってきた町内会組織が弱体化し、これらの存続が危ぶまれる。
- 歴史的風致の構成要素となる地場産業も、高齢化等様々な要因により萩焼や水産物等、萩を支える伝統産業の担い手が減少しており、その担い手の確保と後継者の育成が急務。
- 合併した旧町村部においても、歴史的風致の維持及び向上を図るべき区域が存在するが、文化遺産について十分な調査が行われていないため、随時調査を進め、その結果に基づいた保存・活用の検討が必要。



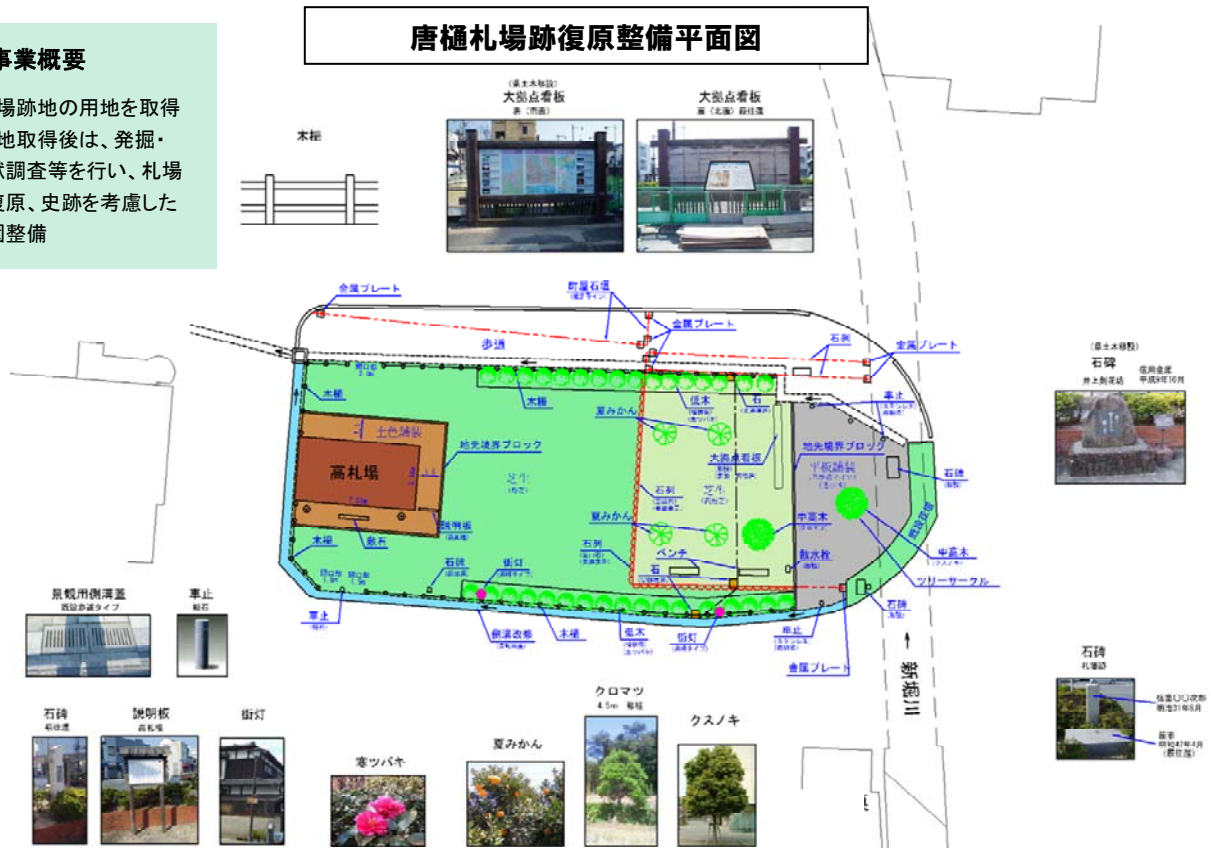
図 事業位置図

事業のポイント（唐樋札場跡整備事業）

◆事業概要

- ・札場跡地の用地を取得
- ・用地取得後は、発掘・文献調査等を行い、札場の復原、史跡を考慮した公園整備

唐樋札場跡復原整備平面図



出典）第2回萩市歴史的風致維持向上計画協議会資料

図 唐樋札場跡整備事業の概要

■唐樋札場跡の復原に至るまでの経緯

○平成20年

- ・5月～6月に市費で発掘調査（試掘）を実施。札場の敷地境界線を示す石列遺構を検出。高札場を示す遺構は確認できなかった。
- ・11月に史跡「萩往還」の追加指定範囲（唐樋札場跡）及び追加発掘調査について文化庁と協議。整備後に発掘調査箇所を追加指定する予定で事業を進める。

○平成21年

- ・1年1月に「周知の埋蔵文化財包蔵地」に決定。
- ・2月～5月に追加発掘調査を実施し、①高札場基壇化粧石の一部や②それを据え付けるための基礎地業（栗石・版築）の痕跡③高札場の柱穴2箇所を確認。（補助事業）
- ・3月に「唐樋札場跡整備委員会（第1回）」を開催。札場跡の整備及び高札場の復原についての意見抽出、検討を行う。
- ・7月に元文化庁主任調査官の現地指導を受ける。
- ・8月に「唐樋札場跡整備委員会（第2回）」を開催。
- ・10月に「唐樋札場跡整備委員会（第3回）」を開催。
- ・11月に公園整備工事に着手。

○平成22年

- ・2月に高札場整備工事に着手

※史跡追加指定の予定時期（平成23年2月に指定告示予定）

- ・4月に唐樋札場跡の整備及び高札場の復原工事を完了予定。

■復原における課題

○整備後の史跡指定を見据えた整備

- ・整備後は史跡指定を予定しているため、遺構の保存保護を優先し、また、歴史的・文化的価値を損なわない整備を行う。

○事例による設計および委員会の設立

- ・江戸時代の高札場の建築図が残っていないため、発掘調査、文献調査及び全国の高札場の類例等を基に高札場設計を行う。
- ・「唐樋札場跡整備委員会」は、有識者のほかに地元商店街等から委員を選出し、地域の意見が聞けるようにした。

○関連事業との調整

- ・本事業に併せ、隣接県道拡幅工事が行われているため、設計内容を事前に協議。

■復原により期待される効果

- ・萩の歴史的文化遺産である萩往還の起点として、市民や観光客が萩の歴史文化に親しむさまざまな活用を通じ、地域の活性化につながるが見込まれる。